

2022年10月3日

「まなびポケット」の申し込みID数が400万を突破 ～学校現場や保護者向けの新機能を継続的に拡充～

NTTコミュニケーションズ(以下 NTT Com)が提供するクラウド型教育プラットフォーム「まなびポケット」の申し込みID数^{*1}が400万IDを突破しました。

現在、「まなびポケット」は「GIGA スクール構想」を実現するプラットフォームとしての活用に加え、「MEXCBT」^{*2}の入り口となる「学習マネジメントシステム」(以下 学習 e ポータル^{*3})としての用途においても全国の多くの自治体に採用いただいております。

NTT Com は、引き続き児童・生徒の特性に応じた個別最適な学びを支援し、保護者の方々がお子さまの学びをサポートできる機能、教職員のワークスタイル変革を後押しする機能などを提供し、より多くの教育現場で利活用いただく取り組みを続けていきます。

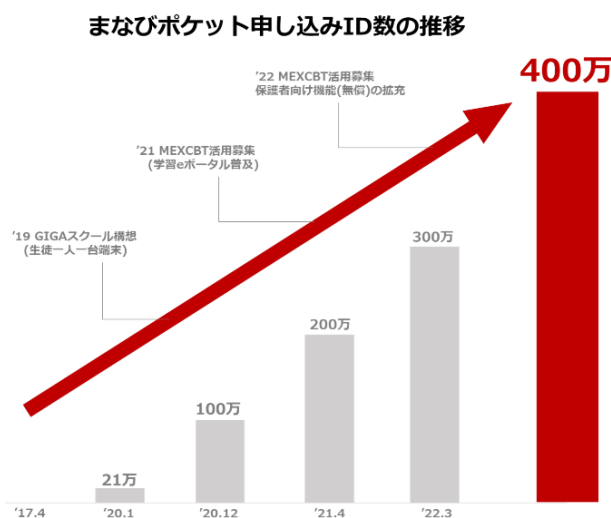
1. 背景

「まなびポケット」は児童・生徒、教職員が一人ひとつのアカウントを持ち、さまざまな学習コンテンツを利用できるクラウド型教育プラットフォームです。インターネットとブラウザがあれば、どこからでもアクセスできるクラウド上で、提携するさまざまなサービス(授業支援・協働学習支援ツール、個別学習支援教材、英語やプログラミングの学習教材など)を提供しています。

2017年からサービス提供を開始し、2022年3月時点では300万IDのお申し込みをいただいております。また、2021年12月には文部科学省が推進する「MEXCBT」と接続し、活用時の入り口となる「学習 e ポータル標準モデル^{*4}」に準拠したプラットフォームとしてもご利用いただいております。

2. 400万ID突破

このような背景の中、「まなびポケット」は2022年9月時点で全国の800以上の自治体、10,000校以上の学校よりお申し込みいただき、400万IDを突破しました。300万ID突破から半年という短い期間での100万ID増加には、「学習 e ポータル」として多くの自治体・学校に選ばれていることに加え、出欠連絡や学校から保護者への連絡など、無償で使える保護者向け機能が評価され、保護者IDが増加したことが大きな要因となっています。今後も継続的に保護者向け機能などを追加して、より多くの方々に利活用いただくことをめざします。



3. 学習 e ポータルとして 4 割以上のシェアを獲得

2021 年度に続き、2022 年度においても文部科学省にて「MEXCBT(機能拡充版)の活用募集」が実施され、昨年度からの累計として学校設置者^{※5} 数で約 1,200、学校数で約 14,300 校（うち実証用の学習 e ポータルは約 290 の学校設置者、学校数約 1,900 校）のお申し込みがありました。

「まなびポケット」は、そのうちの 422 の自治体、5,554 校に採用いただいています。実証用の学習 e ポータルを除いた、商用の学習 e ポータルとして 4 割を超える学校設置者に導入いただいております。トップクラスのシェアを獲得しています。

4. さらなる利活用に向けた機能拡充

「まなびポケット」はさらなる利活用の促進に向け、学校現場や保護者向けにあらたな機能を提供していきます。2022 年度はすでに「教育委員会向け活用レポート」^{※6}、「ポータルブックマーク機能」^{※7}を追加しましたが、さらに今後、以下の機能のリリースを予定しています。

(1) 保護者からの出欠連絡の自動集計・出力(2022 年度 第 3 四半期予定)

保護者向け機能として提供中の出欠連絡機能に、あらたに自動集計・出力機能を追加します。保護者がスマートフォンやブラウザから登録した出欠連絡を自動で集計、出力することにより、校務支援システムへの登録や連携を効率化し、学校現場における事務処理稼働の負担を軽減します。



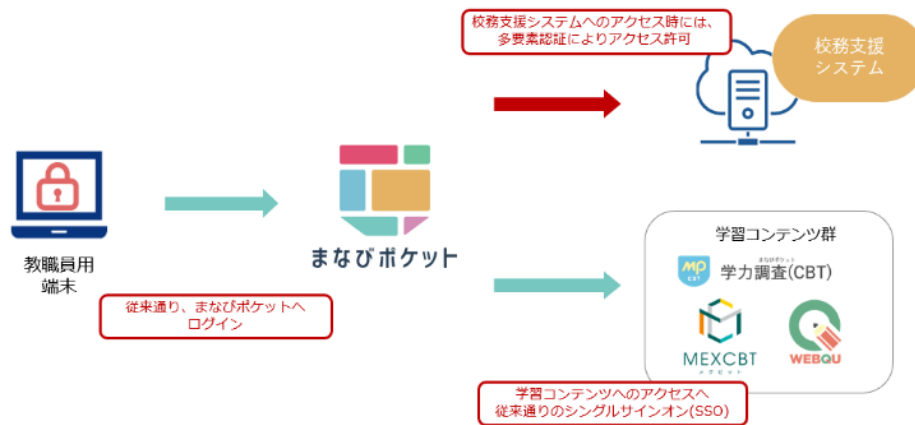
(2) 統合認証サービス(2022 年度 第 3 四半期予定)

2022 年 3 月に文部科学省「情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」が改訂され、アクセス制御によるセキュリティ対策が認められました。「まなびポケット」では、同ガイドラインに準拠した多要素認証・リスクベース認証を実現する統合認証サービスをご提供します。

これにより教職員が、自宅からインターネット経由で校務支援システムを利用することが可能となるため、教職員のワークスタイル変革を促進します。

また、これまで独立していた校務システムと学習システムとの連携が可能となるため、両システム間のデータ連携や、より高度なデータ活用にもつながります。

統合認証サービスのご利用イメージ

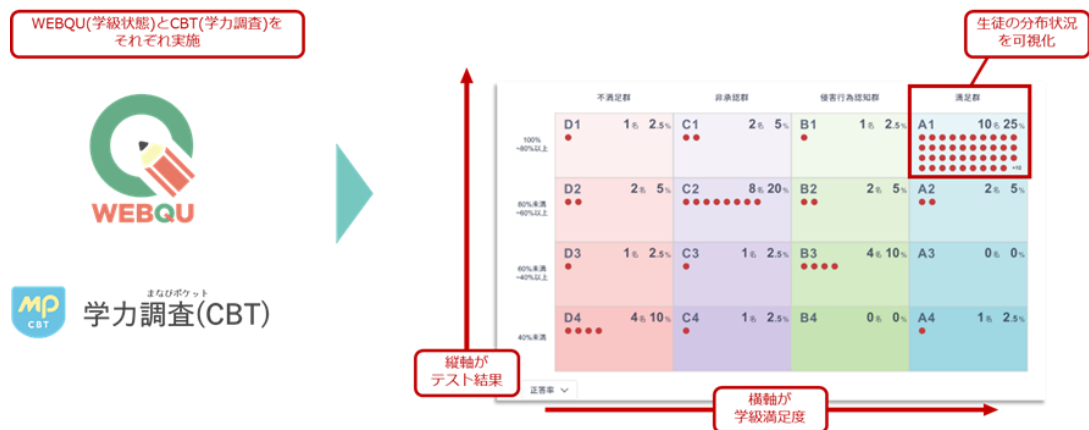


(3) WEBQU(学級状態)×CBT(学力)によるクロス分析の可視化機能(2022年度 第3四半期予定)

「まなびポケット」上で提供している2つのコンテンツ、「WEBQU」と「まなびポケット CBT」をクロス分析し、可視化する機能を提供します。

学級の経営状態がわかる「WEBQU」と、学力の状態がわかる「まなびポケット CBT」を組み合わせることにより、児童・生徒の心理状態や学級の経営状態が学力向上にどのような影響を与えているかを可視化することが可能です。これにより児童・生徒、教職員による一人ひとりにあった個別最適な指導の実現をサポートします。

WEBQU(学級状態)×CBT(学力調査)によるクロス分析イメージ



NTT ドコモ、NTT Com、NTT コムウェアは、新ドコモグループとして法人事業を統合し、新たなブランド「ドコモビジネス」を展開しています。「モバイル・クラウドファースト」で社会・産業にイノベーションを起こし、すべての法人のお客さま・パートナーと「あなたと世界を変えていく。」に挑戦します。



<https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/docomobusiness/>

NTT Com は、事業ビジョン「Re-connect X[®]」にもとづき、お客さまやパートナーとの共創によって、With/After コロナにおける新たな価値を定義し、社会・産業を移動・固定融合サービスやソリューションで「つなぎなおし」、サステナブルな未来の実現に貢献していきます。

Re-connect X

<https://www.ntt.com/about-us/re-connectx.html>

- ※1：ID 数には、まなびポケットを利用する教職員、児童・生徒、保護者の ID が含まれます。
- ※2：「学びの保障オンライン学習システム(「MEXCBT」(メクビット))」は文部科学省が開発を進める、児童・生徒が学校や家庭において、国や地方自治体などの公的機関などが作成した問題を活用し、オンライン上で学習やアセスメントができる CBT(Computer Based Testing)システムです。CBT は問題用紙やマークシートなどの紙を使わずコンピューターを利用した試験をさします。
- ※3：学習 e ポータルは、GIGA スクール構想で整備された一人一台環境と高速ネットワークを活かし、ソフトウェア間の相互運用性を確立してユーザーにとっての操作性を向上させるとともに、教育データをより良く活用するために構想された、日本の初等中等教育向けのデジタル学習環境のコンセプトのことで。
- ※4：「学習 e ポータル標準モデル」は一般社団法人 ICT CONNECT 21 がまとめた、学習 e ポータルのコンセプトに関する概要、技術仕様をさします。
- ※5：「学校設置者」は学校を直接運営する国(国立学校)、地方公共団体(公立学校)、学校法人(私立学校)のことで。
- ※6：「教育委員会向け活用レポート」は各学校での「学習コンテンツの利用状況」や「研修会実施後の活用状況の変化」をグラフ形式で表示するレポート機能のことで。
- ※7：「ポータルブックマーク機能」は「まなびポケット」ポータルサイトのトップページに、各学校が独自に利用する WEB サイトや WEB アプリケーションの URL リンクをブックマークできる機能のことで。